

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	ぶらり荻窪カフェ&安全な暮らし相談室(お元気サロン)		
団体名	非営利活動法人 生きがいの会 (平成 12 年 12 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	902,969 円		
助成額(当初交付)	864,000 円	助成額(決算)	776,970 円
活動目的	独居や老々夫婦世帯の増加に伴い、彼らに実際に支援が必要となるときに手が行き届かないという問題が表面化している。この活動は、高齢者の孤立化を少しでも減らすために、日常生活を営む極近くの場所に居場所をつくり、自由におしゃべりができ、毎回、懐かしい歌を歌うことができ、必要に応じて健康相談もできる環境の確立を目指すものである。本事業は、NPO法人、団地自治会、ケア24が連携して実施する。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実施状況	<p>UR都市機構シャレール荻窪(団地)集会室を会場とし、対象者は、団地住民とその周辺に住む地域住民とした。開催日は、毎週月曜日、開催時間は、午前10時～午後3時。全39回における参加総人数は1,662人(参加者1,328人、スタッフ334人)であった。15回目(台風のため中止)を除いて1回当たりの総参加数は43.7人(参加者34.9人、スタッフ 8.8人)と大好評のうちに終了できた。実施項目等は以下に示す。</p> <p>第1回: 6月30日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、指体操、参加総人数61人 第2回: 7月 7日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数38人(参加者28人、スタッフ10人) 第3回: 7月14日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数45人(参加者35人、スタッフ10人) 第4回: 7月21日(祭)、コーヒー提供、楽しく歌おう、参加総人数37人(参加者29人、スタッフ8人) 第5回: 7月28日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数43人(参加者35人、スタッフ8人) 第6回: 8月 4日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数50人(参加者38人、スタッフ12人) 第7回: 8月11日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数46人(参加者37人、スタッフ 9人) 第8回: 8月18日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数46人(参加者36人、スタッフ10人) 第9回: 8月25日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数50人(参加者39人、スタッフ11人) 第10回: 9月 1日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数49人(参加者38人、スタッフ11人) 第11回: 9月 8日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数44人(参加者32人、スタッフ12人) 第12回: 9月15日(祭)、コーヒー提供、抹茶を楽しむ、楽しく歌おう、参加総人数45人(参加者37人、スタッフ8人) 第13回: 9月22日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数40人(参加者30人、スタッフ10人) 第14回: 9月29日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数47人(参加者39人、スタッフ8人) 第15回: 10月 6日、台風18号接近のため中止とした。 第16回: 10月13日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数29人(参加者23人、スタッフ6人) 第17回: 10月20日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数49人(参加者39人、スタッフ10人) 第18回: 10月27日、コーヒー提供、ケア24相談、楽しく歌おう、参加総人数45人(参加者36人、スタッフ9人) 第19回(11月3日)～第39回(平成3月30日)の参加総人数は別紙に示す。通常は上に記したプログラムであるが、以下に特別に実施した行事を記載する。 第25回(12月15日)はクリスマス会(クリスマス演奏会、楽しく歌おう、クリスマスプレゼント)を実施。 第32回(2月9日)は楽しく歌おうを止め、昔々亭慎太郎師による新春落語会を実施。 第39回(3月30日)長寿応援ファンド助成最終回～コーヒー 特別菓子提供 ケア24相談 楽しく歌おうを実施。</p>
	当初計画からの変更点
	<p>当初の計画では、高齢者に居場所を提供して、コーヒーを味わいながらよま話でくつろいでいただき、イベントは月1回実施することを考えていた。イベントの1つとして、「楽しく歌を歌おう」を計画した。実際に運営してみると、友達と一緒にくつろいでいただくところはごく限られた数人しかカフェに立ち寄ってくれなかった。逆に「楽しく歌を歌おう」を実施したところ、満室となる入りとなった。そこで、急ぎよ、計画を修正し、毎回、「楽しく歌を歌おう」を中心に本事業を運営することにした。少しでも利用層を増やすためにプログラムに昭和30年代(団地が完成したころ)の昔と今を語る、真打の落語を聞く落語会、クリスマスの演奏会とプレゼント、抹茶を楽しむ会等を新規に計画に組み入れた。</p>

活動名	ぶらり荻窪カフェ&安全な暮らし相談室(お元気サロン)
-----	----------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>得られた成果を箇条書きで示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当初の狙いどおり、毎回、30人を超える参加者があり、それぞれの満足度の高い事業であった。結果として参加者の生きがいづくりや健康度アップにつながった。次年度も活動を継続してほしいとの要望が多数あった。参加者の主な声を記す。 <ol style="list-style-type: none"> ①おしゃべりしながら挽きたてのコーヒーの香りと味を味わい気持ちの安らぎを感じる。 ②毎回楽しみにしており、スケジュール表に優先のマークをいれている。 ③この歳になって歌う楽しさを初めて経験した。 ④最近独り身となり声を出す機会が減ったと感じていたため、このような場で大声で歌を歌い、人とおしゃべりできてうれしい。 2. 毎回、ヘルパーに付き添われて参加されている方がいる。まさに生活の近場で開催したための効果である。 3. 参加者は、半数が団地住民、半数は周辺地域に住む住民で、両者の交流も広がり新しい仲間づくりに貢献。 4. 団地内では、毎週来られている方が来ないと、あの人はどうしたの?と安否確認にもなっている。 5. 毎回、ケア24から参加があり、来訪者の相談に気軽に応じていた。健康アドバイスもしている。 <p>本事業の展開により、自治会、ケア24、NPO法人の連携が密になった。独居や老々夫婦に対するサポートはまだ緒に就いたばかりであり、これからますます必要性が増すと考えている。専門家だけでは活動が限られているので地域支援をする団体が重層的に活動の輪を広げていく必要があり、当法人も力を入れていきたい。今後具体的に展開予定の区の総合事業にも関連付けていければいいと願っている。</p>
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>普段生活している団地に、くつろぐことができる居場所を設置した。約9か月営業をした結果、見えてきた課題。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当初、コーヒーを飲みながら友達とおしゃべりを楽しむ場(サロン)を提案した。この試みは成功しなかった。一因は、午前10時からサロンを開店したが、この時間は外に出にくい時間帯だったかも知れない。他の要因は、この場所まで足を運ぶには、本人にとって、インセンティブが必要ということ。 2. そこで、毎回何らかのプログラムを提案(ここではみんなで歌を歌う)した。その結果が「効果・成果」1で示したとおり毎回、30人程度の方々が参加し、歌の前後に、コーヒーを飲みおしゃべりを楽しむスタイルとなった。 3. 次年度の活動予定 年間1,328人もの方々がコーヒーと合唱を楽しみにこの場所へ来ること、新しい居場所として認知されたことを踏まえ、かつ、自立して、継続実施していくことを念頭に以下の実施計画を立案している。 <ol style="list-style-type: none"> (1)「お元気サロン」を継続実施する。 (2)開催場所:今まで同様、シャレール荻窪(団地)集会室 (3)開催日:第1・3月曜日、時間は、午後0時30分～午後3時 (4)提供内容:挽き立てコーヒー、ピアノ伴奏付き合唱、ケア24の相談 (5)参加費用:200円(予定)、社会福祉協議会への助成金を申請中 (6)その他 安価を保ち、かつ近場で開催を基本。 <p>事業を深化して、介護予防体操を実施して総合事業への橋渡しを目指す。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	864,000	776,970
	団体負担金	50,000	9,100
	活動収入	150,000	116,900
	その他の収入		
	計	1,064,000	902,970

費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
謝礼金等	430,000	343,000	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導者三上先生への謝金 落語家昔々亭慎太郎師への謝金 体操指導者岸氏への謝金 開店前からコーヒー等飲物準備するマスターへの謝金
		うち助成額 217,000	
消耗品費	125,719	176,435	<ul style="list-style-type: none"> ・コーヒーメーカー、ミルク、コーヒー豆、紅茶葉、砂糖、ミルク、紙カップ、お菓子等の購入 ・予算を越えた理由 ①利用者が想定以上に多かったこと ②お代わりOKとしたこと ③お菓子付の要望に応えたこと 等による
		うち助成額 176,435	
旅費・交通費	300,000	210,174	<ul style="list-style-type: none"> ・受付、セットを担当したシャレール自治会への交通費 ・ウェイトレス業務と使用機材の洗浄とかたづけ者への交通費 など
		うち助成額 210,174	
印刷費	50,000	39,320	白黒 6,062枚×1枚5円+130円=30,440円 カラー296枚×1枚30円=8,880円
		うち助成額 39,320	
通信運搬費			
		うち助成額	
使用料・賃借料	105,000	85,760	<ul style="list-style-type: none"> ・シャレール荻窪(団地)集会室の使用料 1回につき7時間使用、 1時間320円×(38回×7時間+2時間)=268時間) =85,760円
		うち助成額 85,760	
備品費	48,281	48,281	<ul style="list-style-type: none"> ・電子ピアノ購入 ヤマハP105B 1台分
		うち助成額 48,281	
その他の経費	5,000		
		うち助成額	
計	1,064,000	902,970	執行率 (決算額/予算額) 84.9%
		うち助成額 776,970	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

支出

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容 と 実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。 <input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・ 成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	・毎回、30名を超える方々が集い、歌を歌い、さらに、コーヒーを飲みながらおしゃべりに花を咲かせ、楽しかったと思っただけだ。このことは、何とか独居や老々の高齢者の人々がくつろげる居場所を提供したいと願った私たちの思いがどんぴしゃっと通じたと確信している。結果として、ケア24の活動の場を広げることになったし、団地内では、あの人がこないのはどうしたのかと見守り活動にもつながったと思っている。なによりもご当人たちが家を出て近隣の方々との交流が始まったことは最大の効果だと思っている。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	①おしゃべりしながら挽きたてのコーヒーの香りと味を味わい気持ちの安らぎを感じる。 ②毎回楽しみにしており、スケジュール表に優先のマークをいれている。 ③この歳になって歌う楽しさを初めて経験した。 ④最近独り身となり声を出す機会が減ったと感じていたので、このような場で大声で歌を歌い、人とおしゃべりできてうれしい。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	本事業を毎週展開したことによって、以下の効果を感じている。 1 合唱(パタカラの口腔ケアや歌いながらの体操をする)が楽しく、新しい生きがいとなっている。 2 コーヒーを飲みながらおしゃべりができるので 開催日が憩いの場となり、新規の知り合いづくりにつながっている。 3 参加者の健康度を事前に把握できるので早目に適切なアドバイスが可能となった。
	問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。
	1 参加者に挽き立てコーヒーを味わい、楽しく合唱ができる機会を安価に提供できた。 2 普段の生活圏内(団地の集会所)に場所を借りる(有料)ことが可能となった。 3 結果として、「お元気サロン」を毎週開催でき、多くの方々の新しい生きがいづくりへつながった。
その他	問8 自由意見
	この長寿応援ファンドは多くの団体に新しい切り口から挑戦する機会を与えてくれる良い制度だと思う。助成が1年限りであることは理解出来るものの、事業を自立して継続していくにはかなりの出費の覚悟は要る。実際に担当してみるとあっという間に1年が経った。今回、自治会・町会、ケア24と毎週一緒に地域の高齢者を支える活動ができた。この経験が我々の新たな財産となっている。我々NPOは従来からデイサービスやゆうゆう館運営を通じて地域貢献しているが、今後、ますます高齢者の課題が増えていくだろうと予想しており、行政の先見性を期待するとともに、我々も重層的に役割を担っていきたいと思っている。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	地域交流室エルブ		
団体名	特定非営利活動法人エルブ (平成 15 年 8 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	1,213,643 円		
助成額(当初交付)	770,000 円	助成額(決算)	770,000 円
活動目的	<p>「地域交流室エルブ」は、自習スペースやフリースペースを無料で利用して頂けるように開館しています。その他にも、プログラムとして地域住民の方が主催するものや福祉に関連する様々なプログラムを開催しています。これらを通じて近隣住民同士が交流し合うことで、障害者も高齢者もだれもが住み慣れた地域で安心して生活を送れる社会を目的としています。</p>		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>開館日:月曜日～土曜日 開館時間:9:30～17:30 対象者:天沼近隣の地域住民 活動内容 自習スペース、フリースペースの提供 各種プログラム 「毎月のイベント」「ヨガ」「ピラティス道場」「介護予防体操」「リミック体操」「えほんとおそぼ」「囲碁将棋ひろば」 「天沼サロン」「フランス気分でティータイム」「新聞ちぎり絵」「ケア24荻窪出張相談会」「ボクササイズ」「認知症サポーター養成講座」「認知症カフェ」など その他、NPO法人「キッズドア」による生活困窮者世帯の子どもの無料学習支援への場所の提供や町会・商店街の活動の集まりなどでも利用してもらっています。</p> <p>2013年12月に開館してから2014年11月までの一年間の延べ人数は3,401名 現在来館者数は550～650名/月程度 2015年度は推定7,000名 本助成金で具体的には、毎月の予定表を天沼6町会回覧板、教会通り商店街などで配布したり、プログラムの充実や一部無料化、その他「ボクササイズ」の備品購入等を実施いたしました。</p>
	当初計画からの変更点
	特になし

活動名	地域交流室エルブ
-----	----------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>助成を受け毎月の予定表を町会回覧板等で配布したことにより、来館者数が以下の通り毎月増え続けました。 来館者数:12月112名、1月209名、3月237名、4月289名、5月305名、6月322名、 7月422名、8月528名、9月415名、10月522名、11月597名、12月673名、1月482名 毎月イベントとして「ハロウィン」や「えんにち」「クリスマス会」などを行っていますが、そこにも50名前後の多数の方が参加して頂けるようになりました。 その他にも、「介護予防体操」を無料化することができたことにより、現在では参加者が10名程度となったり、「ボクササイズ」の備品購入でも参加者全員にグローブやミットが行き届くようになりみなさん大変喜んでくださいました。参加者も毎回15名程度と大変活気あるプログラムとなっております。 助成により「地域交流室エルブ」の活動を広く周知できたことで、天沼近隣の地域住民の方は当館を利用しやすくなったと思われます。また、各町会や教会通り商店街などの集まりでも利用されたり、地域住民の方やすぎなみ地域大学卒業生の方からの提案で新たなプログラムが誕生したりと活動の幅が広がり充実させることが出来ました。</p>
-------	--

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>「課題」 ○地域交流室エルブの運営に地域住民の方が参加できる体制をどのように作っていくか。 ○来館者が増加したことにより近隣住民の方へ 「活動予定」 ○フリースペースと自習スペースまたその他のプログラムなども今年度同様に活動予定</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	770,000	770,000	
	団体負担金	22,560	89,443	
	活動収入	300,000	354,200	4月分29,500円、5月分13,500円、6月分23,500円、7月分21,500円、8月分26,000円、9月分22,500円、10月分23,700円、11月分10,000円、12月分17,500円、1月分18,500円、2月分21,500円、3月分25,000円、子育て応援券4月～10月まで63,000円、11月～3月38,500円(未精算) 合計315,700円
	その他の収入			
	計	1,092,560	1,213,643	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	地域交流室エルブ
-----	----------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	600,000	765,000	600,000	4月分 65,000円、5月分 60,000円、6月分 75,000円、7月分 70,000円、8月分 60,000円、9月分 70,000円、10月分 60,000円、11月分 50,000円、12月分 70,000円、1月分 65,000円、2月分 60,000円、3月分 60,000円 合計765,000円 増減理由…ワンコインプログラム数の増加
消耗品費	50,000	63,370	50,000	グローブ: @4100円×10個 ミット: @2380円×5個 @1690円×3個 @1850円×2個 配送料 1,700円 合計 63,370円 増減理由…参加者が増加したため、購入金額を下げて教
旅費 ・交通費				
印刷費	120,000	133,024	61,440	500部×20円×4か月(4、5、6、7月分) 600部×20円×6か月(8、9、10、12、1、2月分) 700部×20円×1か月(11月分) 600部(3月分)7,024円 合計 133,024円 増減理由…印刷部数増加のため
通信運搬費	46,560	48,213	46,560	4月 3,880円、5月 3,991円、6月 3,991円、7月 3,991円、8月 3,991円、9月 3,991円、10月 3,991円、11月 3,991円、12月 4,099円、1月 4,099円、2月 4,099円、3月 4,099円 合計48,213円 増減理由…利用料金の変更と消費税増税分
使用料・賃借料	264,000	192,036		4月 19,018円、5月 11,375円、6月 10,681円、7月 10,644円、8月 13,456円、9月 17,911円、10月 12,435円、11月 11,141円、12月 13,622円、1月 22,354円、2月 20,178円、3月 29,221円 合計 192,036円 増減理由…電気使用量のため
備品費				
その他の経費	12,000	12,000	12,000	ワンコインプログラム保険代(H26.4.1～H27.3.31)
計	1,092,560	1,213,643		執行率 (決算額/予算額) 111.1%
			770,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

活動名	地域交流室エルブ
-----	----------

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
効果・成果	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	具体的な点としては、近隣住民へ「地域交流室エルブ」の周知が出来ました。高齢者だけでなく子育て世代や学生など多世代に活動を知って頂けたと思います。
効果・成果	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
効果・成果	「地域交流室エルブ」は、高齢者や障害者への地域住民の理解を広め誰もが住みやすい街へとなるように活動しています。そういう点においては、理解者・支援者は少しずつですが確実に広がっているように思います。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
	地域交流室エルブの利用は基本的に無料となっています。いつでもだれでも無料で利用できる場所がまちの中にあるということ自体が、地域貢献と言えるのではないかと思います。また、様々な活動団体や個人の方の活動を支える場にもなっていますので、そういう点においても地域貢献になっていると思います。
その他	問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。
	長寿応援ファンドの助成を受けることが出来たことで、公益性の高い活動と地域の方に認識してもらえたのではないかと思います。
その他	問8 自由意見

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	地域の社会資源がつながり高齢者を支援する「オープンリビングけやきの見える家」の開設		
団体名	特定非営利活動法人おでかけサービス杉並 (平成 17 年 3 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	1,126,797 円		
助成額(当初交付)	750,000 円	助成額(決算)	750,000 円
活動目的	今後、地域包括ケアシステムの構築を進める中で、住民自らが主体となって(地域)住民に求められる情報収集と発信のためのネットワークをつくっていくことが必要である。そのための拠点を確保し、併せてこの拠点を運営し活動を支えるサポーターを育成することを本活動の目的とする。		

1 活動の実施状況

* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

実 施 状 況	1. 「ご近所ささえあい教室(サポーター養成講座)」の実施	(1) 第1回 2014年6月26日 於：西荻地域区民センター 主テーマ：介護保険の概要 参加人数 受講者：18名 スタッフ：8名 講師：3名 (2) 第2回 7月3日 於：西荻地域区民センター 主テーマ：・高齢者支援・傾聴 参加人数 受講者：17名 スタッフ：8名 講師：2名 (3) 第3回 7月10日及び17日 於：けやきの見える家 主テーマ：軽介助の実技実習 参加人数 受講者：19名 スタッフ：延べ15名 講師：延べ2名 (4) 第4回 7月31日 於：杉並会館 主テーマ：・認知症を理解する ・今後の活動の協議 参加人数 受講者：17名 スタッフ：8名 講師：1名
	2. 「オープンリビングけやきの見える家」オープニングイベントの実施	(1) 実施日：2014年10月2日 (2) 場 所：オープンリビングけやきの見える家 (3) 内 容：「アルパ演奏」「懇談と懇親」 (4) 参加者：利用者71名、ささえあい教室受講者16名、スタッフ9名、その他8名 計104名
	3. 「けやきの見える家(サロン)」の継続的实施	(1) 実施回数：(10月9日～3月19日まで毎週木曜日午後)計23回。その後も継続実施。 (2) 延べ参加者数：利用者443名(男性44、女性389、子供10)、ボランティア141名 スタッフ114名、講師・見学者等52名、 総計750名 (3) サロンの内容：①楽器演奏、地域の歴史講話、マジック、落語などのイベント ②懇談と懇親 ③ケア24、保健師による相談(ケースワーク) ④地域資源マップの作成
	4. 「地域資源マップ(暮らしのしく おでかけマップ)」の作成の実施	ファシリテーターの指導を得て、利用者の方々と計6回の地域資源掘り起しワークショップを行いこれをマップにし、1,500部を印刷した。マップを持つウォーキングを3月19日に計画したが雨の予報のため延期し、後日改めて開催する。
	当初計画からの変更点	
	1.	3月中に実施の予定であった「マップ片手にまちあるきウォーキング」は、予定の3月19日が雨天の予報であったため延期せざるを得なくなった。 改めて4月2日に実施を予定する。
	2.	サロンでの企画行事は計画では月1回程度としたが、サロン発足当初でもあり、より多くの方に来訪いただくことも目的とし月2回程度の開催となった。ささえあい教室で未使用となった講師料をサロン講師料として使用させていただいた。
	3.	地域社会資源情報の小冊子を作成し印刷する計画を建てていたが、マップ作成で手いっぱいとなりこれは3月末までには達成できなかった。

活動名	地域の社会資源がつながり高齢者を支援する「オープンリビングけやきの見える家」の開設
-----	---

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で活動するボランティア育成を目的とした「ご近所ささえあい教室」は20名の受講者が参加され教室終了後も16名の方々が「けやきの見える家」でボランティアとして活動している。これらの方々は活発且つ積極的にサロン運営と、利用者対応に関わっており、このようなボランティアを育成できたことは大きな成果と考える。 2. サロン運営は、ケア24善福寺と密接に関係を持ちながら運営ができています。このことは、今後の地域包括ケアシステムへの貢献に道が開けたものと期待できる。 3. サロンには平均毎回20名程度の利用者が参加されています。ケア24のスタッフやボランティアの方々が、引きこもりがちな高齢者を誘い参加を促す例もあり、当サロンが高齢者の”通い場”の一つとして機能できているものと考えます。 4. 区内及び区外からの見学者も多く来られる。今後、このようなサロン（通い場）の開設を検討しておられる方々の参考例となれば幸いです。 5. 地域の町会や商店街の方々が、本サロンに対して関心を示してくださっており、サロンの案内などを看板に掲示するなど、また講師として講話を受け持ってくださいなど、地域との協力関係が構築されつつある。 6. これまで個別に活動を行ってきた地域の6つのサロン（高齢者の通い場）が、交流や情報交換を行おうという機運が醸成されつつある。
-------	--

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見出された課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多くの方が、このような地域の通い場に大きな関心を持っておられることが分かった。区内外からの見学者も多く来訪され、また地域での関心も高い。このような「通い場」は地域に必要な機能であり、より多くの、バリエーションに富んだ「通い場」が必要と感じる。 (2) 介護保険ではカバーできない、しかし周囲の手助けが必要な方々が地域には多くおられることが分かった。そのような方たちを見つけ、サポートする仕組みが地域に必要とされる。 2. 翌年度以降の活動予定 <ol style="list-style-type: none"> (1) サロンの開催を継続する。特に、一人暮らしや引きこもりがちな方々を見出し、サロンへの参加を呼びかける。 (2) ケア24などとも連携を一層密にし、手助けが必要な方々をサポートする方策を考えていく。 (3) 地域内で運営されている他のサロン（通い場）と交流し、サロンに期待される役割や機能についての価値観をできるだけ共有化する。 (4) 地域包括ケアへの取り組みについて、ケア24と協議しながら、このようなサロンの果たすべき役割を考えていく。

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	750,000	750,000
	団体負担金	52,340	5,297
	活動収入	81,000	131,000
	その他の収入	217,595	240,500
	計	1,100,935	1,126,797

活動名	地域の社会資源がつながり高齢者を支援する「オープンリビングけやきの見える家」の開設
-----	---

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
	謝礼金等	363,800	246,000	「ご近所ささえあい教室」の講師には、助成申請時には民間の講師依頼を前提としたが、実行面では区職員の方などに依頼したケースもあり、講師料が削減された。他方、けやきサロンでは当初計画よりイベント数が増加し、講師料は増加した。
	うち助成額		226,000	
	消耗品費	63,000	94,560	サロンを始めてみると、利用者に利便性を担保する意味合いから、当初は考えていなかった備品が多く必要と感じるようになり備品費(整理上は単価の上から消耗品)が増加した。
	うち助成額		94,560	
	旅費・交通費	10,000	9,358	
	うち助成額		9,358	
	印刷費	50,000	56,001	
	うち助成額		55,253	
	通信運搬費			
うち助成額				
使用料・賃借料	35,000	31,825	ささえあい教室の開催は、当初全区の公共施設を利用して行う予定としていたが、第3回目の実技実習は「けやきの見える家」で行った。ために会場使用料が減少した。	
うち助成額		31,825		
備品費	122,200	63,504	助成申請時に、単価の上から消耗品費として計上すべき物品を備品費として計上してしまった。ために備品費として整理すべきものはプロジェクターのみとなった。	
うち助成額		63,504		
その他の経費	456,935	625,549	会場改修費が当初の見積もりから増加した。またサロンの実施に当たり予想外に文具や物品の購入が増えた。	
うち助成額		269,500		
計	1,100,935	1,126,797	執行率 (決算額/予算額)	102.3%
		うち助成額	750,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	<ol style="list-style-type: none"> ケア24善福寺の職員が活動に参加し、連携は十分にできた。個別的な事案の情報伝達なども実施できた。 スタッフや利用者の参加により「地域社会資源マップ(暮らしのしく おでかけマップ)」の作成はできた。また、ご近所ささえあい教室や、サロンの実施を通して地域福祉を担う人材(ボランティア・サポーター)の育成も進んだ。地域社会資源のネットワーク化については、取り組みが始まったところである。 サロンは、高齢者が集う場所としては十分に機能していると思う。見守り体制の構築は今後の課題である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、来訪者の方から「行く場所ができて良かった」「ここへ来るのが生きがいになった」などとの声をいただいた。 講師として講話をお願いした地域の古老の方からは「地域の方々とは結びつきながら、素晴らしい活動をされていると感じました」との感想をいただいた。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
<ol style="list-style-type: none"> 地域の、特にこれまで外出をためらっていた高齢者に外出の場所を提供できた。 ケア24善福寺と地域のつながりを、さらに強化するための場所を提供できた。 積極的に活動する地域のサポーターを養成することができた。 これまで個別に活動していた、対象地域の6つのサロンが定期的に(年4回程度)交流を行う機運ができた。 	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
<ol style="list-style-type: none"> 長寿応援ファンド助成事業ということで、周囲の信頼と安心を得ることができ、「ご近所ささえあい教室」の受講応募者を集めることができ、また公的機関である「ケア24」の全面的関与を受けることができ、その後の継続にもつながった。 サロン開設に必要な改修や備品の調達ができ、また十分なイベント等の開催により、サロンの利用者を増やし定着させることができた。 	
その他	

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を、伝えます。		
団体名	北塩原村ツアー参加者による実行委員会 (平成 26 年 4 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	289,951 円		
助成額(当初交付)	300,000 円	助成額(決算)	265,664 円
活動目的	杉並区の交流自治体である福島県北塩原村のツアーに参加したことがある杉並区を中心とした都内の若者が、ツアーで得た“本当の”成果を、特設ホームページを作成し、北塩原村民や杉並区民を中心に広く表現することを通じて、都心の若者が地方へ訪れることの魅力や社会的価値を高めることを目的とする。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>◇平成26年4月5日キックオフミーティング (対象者: 第1回～第3回雪まつりボランティアツアー参加者 参加者総数: 15名) ・ツアー成果の整理・共有、今後の活動計画の発表</p> <p>◇8月29日～31日下見ツアー(参加者数: 9名) ・北塩原村の方々9名へのヒアリング、五色沼などでの写真撮影(ホームページの素材収集)</p> <p>◇9月～10月ミーティング(全4回 参加者総数: 35名) ・下見ツアーの成果の共有、写真の確認等、ホームページの方向性及び製作スケジュール</p> <p>◇11月ミーティング(全4回 参加者総数: 15名) ・自治体フォーラムでの発表資料作成、発表練習、活動趣旨の再確認 ・ホームページのテーマと機能をワークショップ形式で議論・決定、会計報告</p> <p>◇11月12日交流自治体フォーラム@北塩原村(参加者数: 2名) ・当実行委員会の活動発表、北塩原村等杉並区の交流自治体職員の方々との活動紹介・交流</p> <p>◇12月ミーティング(全3回 参加者総数: 18名) ・ホームページ作成ソフトの選定、ツアー概要の共有等、2月ツアー内容の検討</p> <p>◇平成27年1月～2月ミーティング(全5回 参加者総数: 14名) ・ツアー準備(役割分担等) ・HP作成(タイトル・構成決定、日程確認、動画作成等)</p> <p>◇2月13日 ホームページ公開</p> <p>◇2月19日 杉並区長寿応援ファンド助成活動報告会に参加</p> <p>◇2月21日～22日 「雪国いいとこ発見」若者ツアー開催(参加者総数: 25名 *運営メンバー10名含む) 【参加者のサポート、ホームページ素材収集(五色沼を中心に写真撮影)、村の方へのヒアリング等】</p> <p>◇3月ミーティング(全2回 参加者総数: 13名) ・今年度の反省・精算 ・来年度へ向けた計画立案・プレスト</p>
	当初計画からの変更点
	<p>◇ホームページの譲渡について -制作過程を通じて、「東京の若者の視点で北塩原村を見る」ことがもってできるということを考えたため、現時点は譲渡は行わず、常に東京から新しい情報を更新していこうと考えている。</p> <p>◇3月に実施予定だったイベントについて -2月に臨時で“北塩原村ツアー”を開催することとなり、杉並区の大学生を中心に、東京の若者を北塩原村へと連れて行くことができた。これは「地方へ足を運ぶことの重要性を講演する」以上の成果だったと考え、実施は取り止めた。</p>

活動名	若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を、伝えます。
-----	--------------------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	(1)北塩原村の方達への丁寧なインタビュー・交流の機会と、生きた情報が掲載されたホームページの完成 福島県北塩原村へ実際に赴き現地の人々にインタビューすることで、実際に耳にしてこそ知れる現地の不安や希望を知ることができた。また、それをホームページという目に見える形で発信することで都会に住む若者たちへ生の情報発信が出来た。ホームページの完成により、これまでや今後の活動の全てをデータベースとして活用していくことができる。今後とも活用していきたい。 ホームページURL: http://tadaimakitashio.p2.weblife.me/index.html
	(2)2015年2月に再度ツアーを実施する動きが北塩原村で生まれた 本来なら、ツアーは昨年度で終了の予定だった。しかし、杉並区の若者の活動を目にした北塩原村の職員が、国の助成金を申請し、獲得することができた。これにより、1泊2日という短い期間(過去3回は2泊3日で実施)ではあったものの、2月にツアーを実施することができた。自分達の動き出しによって、周りの環境が動き出したことは、大きな自信となった。
	(3)ツアーには定員をこえる25名もの参加者が集合 2015年2月に実施された上記のツアーには、募集期間が短かったにも関わらず、リピーターの参加者が9名、区報等を使って集まった参加者が16名と、継続的なつながりを確認する一方で、新たな風を吹き込むことに成功した。参加後のアンケートからは北塩原村の魅力発見はもちろんのこと、「つながりの温かさを知ることができた。」「普段の地域や社会への無関心さに気づいた。」など若者が自らを知り、見つめ直すきっかけとしての成果を感じることが出来た。

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>【課題】</p> <p>①既存メンバーと新規メンバー間でのビジョン共有・引き継ぎの不徹底→年度初めに設定した団体ビジョンを、新規メンバーに伝達する機会を十分に取れなかった。また、メンバー間におけるスキルの差が運営を滞らせる場面があった。</p> <p>②助成金の扱いに関する確認不足→活動初期に書類を十分に確認しなかった。</p> <p>③北塩原村とのコミュニケーション不足→訪問のタイミングやその際の連絡が遅れてしまった。</p>
	<p>【今後の活動予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバーの決定と役割分担の再確認(課題①②に対応) ・北塩原村の食材を活かした販売・コラボイベントの実施(課題③に対応) ・雪まつりボランティアツアーの継続的な実施及び新たな形の考案(課題③に対応) ・「すぎなみフェスタ」をはじめとした交流自治体行事への協力・参加(課題③に対応) ・ホームページの更新、他ホームページとの連携等(課題①に対応)

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

	予算額(円)	決算額(円)	内訳	
収入	長寿応援ファンド助成金	300,000	265,664	
	団体負担金	9,630	24,287	26年度コアメンバー負担
	活動収入	8,000		
	その他の収入			
	計	317,630	289,951	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を、伝えます。
-----	--------------------------------------

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
	謝礼金等	20,000	うち 助成額	(内訳)3月イベント講師謝礼(増減理由)イベントの開催を見送ったため。
	消耗品費	9,600	うち 助成額	(内訳)飲み物代、紙コップ、白紙、名札用画用紙(増減理由)全て私物、または私費で補うことが出来たため。
	旅費 ・交通費	184,000	208,287 うち 助成額 184,000	【8月29日～31日】 ①レンタカー代…31,146円 ②ガソリン代…10,411円(6,039円+4,372円) ③高速代…12,830円 ④宿泊費(8月)…53,900円 【2月】 ⑤運営メンバーツアー参加費(10名)…100,000円 (増減理由) ・下見時の宿泊代が予定より高くなった ・2月にツアーを実施することになった
	印刷費	13,320	うち 助成額	
	通信運搬費		うち 助成額	
	使用料・賃借料	11,100	うち 助成額	(内訳)3月イベント講師謝礼(増減理由)イベントの開催を見送ったため。
	備品費	59,800	57,194 うち 助成額 57,194	⑥プロジェクター代 (内訳)ミニプロジェクター(増減理由)予定より安くて良質なものを見つけたため。
	その他の経費	19,810	24,470 うち 助成額 24,470	⑦BiND代 (内訳)BiND(増減理由)サイトデザインに関して一定のクオリティが必要だと判断したため。
	計	317,630	289,951 うち 助成額 265,664	執行率 (決算額/予算額) 91.3% 予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

活動名	若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を、伝えます。
-----	--------------------------------------

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
効果・成果	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。 長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input checked="" type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を伝えるために、ホームページを作成・公開することができた。しかしホームページの北塩原村と杉並区との連動が不十分であるため、ホームページの北塩原村・杉並区の方々への認知度向上が課題である。またホームページ・コンテンツとして当初予定していた「北塩原村へ行った若者の追跡調査」が実施出来ておらず、さらなるコンテンツの充実化も課題である。
問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。 <input type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input checked="" type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 ・若者の写真がたくさん使われていて、活気ある感じを受ける。楽しそうな感じが伝わってくる。配色から安心感、親しみやすさを感じる。自分も行ってみたいと思う。 ・皆の良い表情を捉えた写真がくっきりとした印象を残すページです。ツアーの楽しさがありありと伝わってくるようです。	
問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。 都会(杉並区)の若者が、地方(北塩原村)へ実際に足を運ぶ、また地方へ行く啓発活動となっている。地方創生が叫ばれる中で、東京と地方との交流活性化を通じて観光・産業の活性化が大切である。この点から本活動は、ホームページを通じて都会の若者が地方へ興味を持ち、定期的に訪れることにつながり、地方の活性化に貢献する。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。 若者が交流自治体に訪れることによって得られる“本当の”成果を伝えるために、ホームページを作成・公開することができた。さらに杉並区を中心とする若者が北塩原村に実際に訪れ、北塩原村の人・自然・文化の魅力を肌で感じることができた。1年間に2回ホームページ作成のための取材・下見ツアーを実施し、実行委員会以外に杉並区を中心とする若者を北塩原村に連れて行った。また、ホームページを通じて、若者に北塩原村へ行く動機付けを行うことができた。ホームページへ「北塩原村民インタビュー」や「写真」を掲載して北塩原村の魅力を発信した。	
その他	問8 自由意見 若者がチャレンジできる舞台を下さったこと、本当に感謝しております。いただいた助成金をきっかけに、来年度以降更なる活動を展開していきたいと思っております。ぜひ、見守って下さい。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	グレードアップ蚕糸の森		
団体名	蚕糸の森 おはよう会 (昭和 61 年 8 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	752,218 円		
助成額(当初交付)	521,000 円	助成額(決算)	521,000 円
活動目的	朝のラジオ体操会 ラジオ体操を基本に、「男の料理教室」「コーラスすずかけ」「ウォーキング会」という高齢者の方にもなじみやすいテーマで参加を呼びかけ、地域の活性化、人の交流、発展につなげる。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実施 状 況	<p>「男の料理教室」会費 600円 * 26年6月30日(セシオン杉並) 他のラジオ体操会会員(29名) 合計70名参加 「天ぶら、和食膳」 * 9月22日(セシオン杉並) 地域の町内会員、役員(19名) 合計52名参加 「酢豚、中華」 * 27年3月30日(セシオン杉並) 「すずかけ」及び一般参加者(21名) 合計48名参加 「五目ちらし寿司」 食事後、皆で歌と踊りを楽しむ</p> <p>「ウォーキング会」会費 300円 * 26年4月1日 (靖国神社、千鳥ヶ淵 花見) 35名参加 (一般者16名) 農林水産省食堂にて昼食(自費) * 10月11日 (日本民家園散策) 36名参加 (一般者 13名) ファミリーレストランにて昼食(自費) * 11月22日 (新宿御苑 紅葉) 18名参加 (一般者 4名) 中華レストランにて昼食(自費)</p> <p>「コーラスすずかけ」10月より会費200円徴収 * 26年6月25日 (セシオン杉並 音楽室) 31名参加 ピアノ伴奏 斎藤和子 7月6日より杉並第十小学校音楽室にて、毎月2回コーラスを実施 ピアノ伴奏付き 毎回、35~40名の参加者(一般参加者 2/5) 現在、第19回を完了 27年4月より会費を1回300円にする 毎週土曜日(体操の後) 蚕糸の森公園中央広場で、歌の練習</p>
	当初計画からの変更点
	<p>「男の料理教室」で当初予定のなかった弁当箱70個(67, 662円)を購入 これにより、一般参加者の方々を自信をもって招待できた。</p>

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	「男の料理教室」 一般参加者も多く、募集のかけ方でより多くの参加者、リピーターを集めることも可能と考えてます。中野区と同じようなボランティア団体による昼食会を見学し、やる以上はきちんとご招待できるようにと弁当箱セットを買わせていただきました。これも参加者の好評を得た要因の一つと考えています。また、貸し室料金も上がり会費(600円)だけでは賄えないとこまで来ていたと考えています。
	「コーラスすずかけ」 ピアノ伴奏者をつけ、杉並第十小学校音楽室という公共施設を借りて新しいコーラスグループを立ち上げることに少なからず不安はありました。今回、初めての補助金制度に応募し、助成いただいたことは金銭面と同時に精神面でも大きな支えとなりました。26年10月より会費(1回 200円)を取ることができるようになり、また、27年4月より会費(1回 300円)の値上げができるのも私ども役員自信の表れです。 ピアノ伴奏がつくことにより迫力が出、参加者のパワーを感じます。軽度の認知症の方が、会うたびに顔色が良くなるような気がして、私ども役員も楽しみになりました。

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>* 「男の料理教室」は現状を維持することを考えています。これ以上スケールを大きくすると高齢者である私ども役員、スタッフの方から問題が出ると考えます。このイベントにはお客様はいりません。自主的に参加し、参加することに意義を感じ、楽しめる人を集めるようにしたいと考えます。</p> <p>* 「コーラスすずかけ」は歌が上手になるというよりは、歌を思い切り楽しむというグループです。童謡唱歌を基本に、元気の出る歌、テンポの速い歌も多く取り入れて、他のコーラスグループとの違いをはっきりさせて行きたいと考えます。今年では実現できなかった、発表会の参加もぜひ企画したいと考えます。 協力的なピアノ伴奏者、コーラス指導者、役員、参加者の方に支えられています。いつまでも無償、低報酬では維持できないところまで来ていると考えます。</p> <p>* 「ウォーキング会」現状維持。</p> <p>* 高齢者が高齢者を接待するというにはいずれ限界が来ると考えます。我々役員だけでなく、参加者全員で活動できるような方法を研究します。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

収入	予算額(円)	決算額(円)	内訳
	長寿応援ファンド助成金	521,000	521,000
団体負担金	53,700	35,118	
活動収入	152,000	196,100	
その他の収入			
計	726,700	752,218	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	グレードアップ蚕糸の森
-----	-------------

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
	謝礼金等	180,000	195,000	ピアノ伴奏
			うち 助成額 80,543	
	消耗品費	160,000	195,676	男の料理教室食材
			うち 助成額 160,000	
	旅費 ・交通費	100,000		
			うち 助成額	
	印刷費	130,000	123,757	プリント代
			うち 助成額 123,757	
	通信運搬費	12,000	12,200	
		うち 助成額 12,000		
使用料・賃借料	65,100	65,950	セッション杉並	
		うち 助成額 65,100		
備品費	49,600	124,714	弁当箱CDラジオ	
		うち 助成額 49,600		
その他の経費	30,000	34,921	行事保険	
		うち 助成額 30,000		
計	726,700	752,218	執行率 (決算額/予算額) 103.5%	
		うち 助成額 521,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

活動名	グレードアップ蚕糸の森
-----	-------------

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 「男の料理教室」、「コーラスすずかけ」、「ウォーキング会」ともに会員数の増加、リピーターが多く、PRしただけでは我々の能力を超えてしまう可能性がありました。しかし、新しい会員が増え、「ラジオ体操」を含めた4つの企画が相乗効果を持ち、発展してゆくことは感じられました。それが我々役員狙いであり、エネルギーの源だったと思います。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 「コーラスすずかけ」で新年会を企画しましたら、全員の賛成が得られ、90%の会員の方の参加がありました。当初、有料化することさえも不安があったが、会費を「200円」、「300円」と値上げできて安心しました。また、他の会員の方にも積極的に仕事を手伝ってもらえるようになりました。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
我々のこの一年の活動により地域が大きく変わったとは思いません。しかし、各イベントで1/3～2/5の新しい会員を集めたということは立派な成果と考えます。これは初年度です。これが起爆剤になり発展することを望みます。これらのイベントで知り合った新しい仲間同士が喫茶店で話し合い、ファミリーレストランで一緒に食事をとりあっている姿を見かけます。これが起爆剤です。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
*「男の料理教室」において、弁当箱70個購入することにより、町会、他のラジオ体操会、一般会員をご招待しやすくなった。 *「コーラスすずかけ」において、ピアノ伴奏者、指導者に謝礼を支払って運営できるのか疑問がありました。我々だけの力では実現しなかったと考えます。	
その他	問8 自由意見
	我々の企画は、シニアの方々にも受け入れやすく参加しやすいものと考えます。これにより、ラジオ体操という身体的な面だけでなく、料理、歌を通じ精神的な面での活動も進めていきたいと考えています。これからは「認知症」の問題が重要です。我々自身も含め、地域におけるシニア社会の発展に少しでもご協力できれば素晴らしいことと考えています。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	食と憩いのほっとスペース事業		
団体名	杉並・ワーカーズまちの縁がわ なかまの家 (平成 25 年 10 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	2,173,013 円		
助成額(当初交付)	421,000 円	助成額(決算)	421,000 円
活動目的	超高齢化社会が進む中で、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし 続 け、最後まで自分らしく生活できる仕組みづくりの必要性を考え、高齢者の 社会参加の機会を増やすための、地域にひらかれたまちづくりを目的 とした拠点である居場所を作ることを目的とする。		

1 活動の実施状況

* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	実施日	場所	対象者	参加人数	実施状況
実 施 状 況	4/7・9	なかまの家	年齢問わず	36	お花見 松花堂弁当を楽しむ
	6/27	〃	高齢・独居	15	食育講座「減塩してもおいしいテーブル」
	7/25	〃	〃	17	食事会
	9/26	〃	〃	20	食育講座「減塩してもおいしいテーブル」
	10/20	〃	年齢問わず	多数	スケッチ大会と講演「アレルギーの話」
	10/21	〃	〃	12	色合わせ
	10/22	〃	〃	多数	コーラス発表とステンシル
	10/23	〃	スタッフ	8	布ぞうり作り講習
	10/24	〃	高齢・独居	17	食事会
	10/25	〃	子ども・一般	多数	子ども広場とバザー
					※ 設立1周年記念感謝週間として、作品展・ミニコンサート をはじめ、楽しい催しをすることで地域の方々になかま の家を知って頂いた。
	11/28	〃	年齢問わず	17	講演「薬の話」
	12/19	〃	高齢・独居	19	食育講座「減塩してもおいしいテーブル」
	1/23	〃	〃	15	食事会
	2/11	〃	スタッフ	13	内部研修「認知症の方への対応」について学ぶ
2/27	〃	高齢・独居	18	食事会	
3/27	〃	〃	20	食育講座「減塩してもおいしいテーブル」	
	ケア24成田 杉並栄養と食の会の協力支援により、一年を通して食をテーマに活動を実施し、 参加者が食に関心を持ち仲間作り、交流へと発展できる状況が作れた。 庭の畑で収穫したジャガイモ、インゲン、キュウリ、枝豆、ゴーヤ等を食卓に飾り喜んで頂いた。				
	当初計画からの変更点				
	ほぼ計画通り実施し大きな変更はありません				

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが自由に集えるほっとスペースを知ってもらい、使ってもらい、おいしい・楽しいを実感するための居場所を整えることができた。 ○ 「減塩してもおいしいテーブル」の食育講座を年4回開催。その他に月1度の食事会に多くの方々が足を運び、食への関心、大勢で食べる楽しみと健康維持は食生活の改善につながり、ますます元気で充実した生活が送れる事ができたと感じている。 ○ パソコン・プリンターを購入し、地域への発信・広報のためのパンフレットやチラシ作りができた。 ○ スペース利用の方々への安心、安全のための保険加入。
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は私共が提供する立場で進めてきた。来年度は利用する人々と一緒に企画し、居場所をもう少し充実し、空スペースの活用、プログラムの刷新を図りたい。 ○ 若いスタッフの参加が望めなかった。 ○ 杉並栄養と食の会の好意により「減塩してもおいしいテーブル」の食育講座を継続。 ○ ケア24成田と連携し地域貢献を進める。

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	421,000	421,000	
	団体負担金	1,826,700	1,437,818	ランチ 喫茶 レンタルスペース使用料 委託事業
	活動収入	79,000	153,257	講座参加費 手作り品販売 バザー売上げ
	その他の収入	20,000	160,938	寄付 カンパ 賛助会費 他
	計	2,346,700	2,173,013	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	内訳・増減理由
	謝礼金等	100,000	100,000	講師謝礼
			うち 助成額 100,000	
	消耗品費	53,865	107,415	インク コピー用紙 圧力鍋 せいろ レンガ 園芸用品
			うち 助成額 89,044	
	旅費 ・交通費			
			うち 助成額	
	印刷費	42,000	32,224	パンフレット用インク 用紙
			うち 助成額 32,224	
	通信運搬費	18,805	30,074	切手 ハガキ 振込手数料
		うち 助成額 7,212		
使用料・賃借料				
		うち 助成額		
備品費	246,030	275,458	パソコン プロジェクター	
		うち 助成額 161,600		
その他の経費	1,886,000	1,627,842	総合保険料	
		うち 助成額 30,920		
計	2,346,700	2,173,013	執行率 (決算額/予算額) 92.6%	
		うち 助成額 421,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること	

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。 <input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。
	ケア24成田の協力は大きな力となり継続して連携していく 食育講座、食事会には毎回多数参加され楽しまれた あんしん協力機関として行政と連携できた
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。
	地域の支援者から常に見守りアドバイスを得、多くの方々を紹介していただいている 食事がおいしい 楽しみが増えた こういう居場所が沢山できると良い
問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。	
<input type="radio"/> 食をテーマに活動してきましたので 手軽で安心した食事がとれる <input type="radio"/> 地域の一人住まいの高齢者が集い 会話をしながらランチを楽しんでいる <input type="radio"/> 見守りの役目になっている	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
<input type="radio"/> 助成を受けたことで活動が広がり 利用する方々への安心が得られた <input type="radio"/> パソコンを購入する事で毎月の予定の周知やイベント開催のチラシ作りに大いに役立った	
その他	問8 自由意見
	助成を受けられた事に感謝しています。有難うございました。 この居場所を地域に還元できるよう、日々精進し活動してまいります。 高齢者の社会参加を目指した地域の居場所が沢山出来る事を期待しています。

長寿応援ファンド助成活動報告書(平成26年度)

活動テーマ	<input type="checkbox"/> 高齢者の日常生活や健康づくりを支援する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 次世代を支援する活動 <input type="checkbox"/> 若者が自主的に企画立案し実施する活動		
活動名	みんな集まれ！重度心身障害児たちの集いの場づくり		
団体名	すぎなみ重度心身障害児親子の会 みかんぐみ (平成 26 年 4 月設立)		
活動費 (事業終了後確定額)	811,710 円		
助成額(当初交付)	732,000 円	助成額(決算)	732,000 円
活動目的	医療技術の進歩及び「障害児も施設から地域へ」という行政方針の推進により、在宅生活をおくる重症心身障害児の数は増加しているが、在宅生活を支える公的支援(通所施設やグループホームなど)は整備が追いついていない。そのため障害児およびその家族はおのずと家庭にこもりがちとなる。また重症心身障害児の多くは、その病気が故に「自分の意思をわかってもらう」ことが非常に困難のみならず、周りの人たちがその意思を汲み取ることもまた難しい。私たち「すぎなみ重症心身障害児親子の会 みかんぐみ」では、障害児ひとりひとりが「自らの意思に基づき」将来を選択できる環境づくりを目指し、重度障害を抱えていても地域でいきいきと暮らしていくための力を親子ともに身に付け、周囲の人たちとの触れ合いの中でその個性をはぐくみながら、生活の基盤を作っていくための活動を行っていく。		

1 活動の実施状況

*** 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。**

実 施 状 況	<p>1. 重症心身障害児たちのグループ活動(親子イベント) 本活動では、重症心身障害児たちの「自己表現力」を高めるための行事等を行った。自己表現力は様々な経験を通して人と触れ合う中で生まれるという考えのもと、2014年度は7月以降月に1回のペースで下記の活動を実施。</p> <p>▼イベント内容 7/5(土) リトミック(こども発達センター) 参加者:9家族26人(こども13人・大人13人) 総数(スタッフ等含む):49人 9/13(土) スヌーズレン体験(マイルドハート高円寺) 参加人数:7家族15人(こども7人・大人8人) 総数:16人 9/27(土) タッチケア(こども発達センター) 参加人数:12家族32人(こども16人・大人16人) 総数:51人 11/1(土) 遠足(サンシャイン水族館) 参加人数:9家族21人(こども10人・大人11人) 総数:23人 11/29(土) 音楽コンサート(マイルドハート高円寺) 参加人数:10家族31人(こども15人・大人16人) 総数:41人 12/23(祝) クリスマス会(こども発達センター) 参加人数:12家族35人(こども17人・大人18人) 総数:52人 1/18(土) 制作あそび(こども発達センター) 参加人数:12家族34人(こども17人・大人17人) 総数:47人 3/8(日) 1周年記念総会(タウンゼン8階会議室) 参加人数:61人(こども25人・大人36人) 総数:82人</p> <p>2. 保護者のための勉強会・情報収集活動 本活動では、重症心身障害児を主にケアする保護者の障害に対する知識向上や、行政・福祉・医療分野といった専門分野の方々との交流を目的とした。親子の分離イベントとして親向け講座の開催を実施したほか、先進的な取り組みを行っている施設見学や団体との情報交換を行った。さらに関係各分野との意見交換等により得た情報や知識等を集約し、重症心身障害児の保護者のための情報冊子を作成した。</p> <p>▼情報収集・意見交換等 3/15 社会福祉法人「訪問の家」シンポジウムへの参加 6/17 杉並区内障害者通所事業説明会への出席 6/17 文科省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官・分藤賢之氏との面談 7/12 「訪問の家」施設見学 参加人数:12人 7/21 杉並区内重度障害者グループホーム設立準備中の団体との意見交換 10/21 児童発達支援事業所開所予定者との意見交換 1/5 杉並区保健福祉計画改定案に対する意見提出 2/7 小松久子都議・そね文子区議との面談 3/12 冊子発行「重症児とその家族のための おうち暮らし安心BOOK」2,000部</p> <p>▼親子分離イベント(親向け勉強会) 2/21(土) ストレス・マネジメント講座(マイルドハート高円寺)参加人数:10家族20人(こども10人・大人10人)総数:34人</p> <p>3. 情報発信 2014年4月にFacebookのページ(http://www.facebook.com/suginamimikangumi)を開設したのを皮切りに、7月にTwitter(@mikangumikids)、2015年1月にHP(http://mikangumi.com)を開設した。これらのweb媒体によって広範囲の人に対して情報発信を行うことができています。また、地域(保健センター、区役所、こども発達センター、障害者福祉会館等)に紙チラシ300部を配布し、地元に着した広報活動を実施している。</p>
	当初計画からの変更点
	<p>当初計画では親子イベントの開催を2か月に1回程度としていたが、早期に会場(こども発達センター、マイルドハート高円寺などでしこ)および協力者(医師、看護師、ヘルパー、ボランティア等)の確保ができたことに加えて、会員数が増加したため、1か月に1回の頻度で開催した。</p>

活動名	みんな集まれ！重度心身障害児たちの集いの場づくり
-----	--------------------------

2 実施活動の効果・成果

* 長寿応援ファンド助成を受けたことによる効果・成果(地域への貢献)を、記入してください。

効果・成果	<p>長寿応援ファンド助成を受けたことにより重症心身障害児のグループ活動を安全かつ定期的に行うことができた。具体的には、協力者(講師・医師・看護師・ヘルパー等)への謝金、イベント参加時の交通費等に助成金を活用することで、多くの親子がイベントに参加することができ、結果会員数が1年で倍増した(8組→17組)。さらに助成対象として選出されたという事実から周囲の人々が本団体に対して信頼感を持ち、協力が得やすくなった。長寿応援ファンドの広報等を通じた問い合わせも多く、現在は協力者として医師1名、看護師2名、ヘルパー事業所1事業所、ボランティア6名、学生ボランティア6名が参加している。このグループ活動により、家庭にこもりがちであり体験機会の乏しかった重症心身障害児に対して貴重な体験機会の提供をなすことができた。</p> <p>また、助成によりHPの作成が実現したほか、関係各分野(行政・医療・福祉等)との意見交換を積極的に実施することができ、保護者にとって、福祉制度や医療技術等の知識の増加、地域活動家(協力者)とのつながり、地域におけるネットワークの拡大といった効果が得られた。こうして得た知識や情報等を集約し、障害児の保護者向けの冊子「重症児とその家族のための おうち暮らし安心BOOK」を発行した。冊子作成および配布を通じて、関係各機関との連携が強化され、今後構築を目指す重症心身障害児の地域生活を支えるネットワークの基盤を作り上げることができた。</p> <p>このように長寿応援ファンド助成を受けて本事業を実施したことにより、重症心身障害児とその家族が地域で暮らしていくための基盤づくりを行うことができた。他方、活動に参加した地域住民自身も地域に潜在している物的・心的バリア状況を認識することができ、世代や障害の有無などの差異を超えてつながりあう豊かな地域社会の実現に向けてともに取り組む端緒となった。</p>
-------	---

3 今後の課題及び翌年度以降の活動予定

* 課題の要因も併せて記入してください。

活動を実施した結果見出された課題及び翌年度以降の活動予定	
課題・活動予定	<p>本団体の設立趣旨である「重度障害があっても地域で生き生きと暮らしていく」ことを実現するためには、具体的なニーズを集約することが不可欠である。新規会員が増加したことも踏まえ(当初8組親子→17組親子)、2015年度は重症心身障害児のグループ活動に加えて、会員間の情報交換も重点的に実施する。情報交換によって集約された意見を基に、行政・福祉・医療分野等を巻き込んだ重症心身障害児を支えるためのネットワークづくりを推進していく。特に、就学問題に関しては喫緊に取り組むべき課題である。また、会の運営を安定的に行うために自主財源の検討も行う。</p> <p>1. 重症心身障害児たちのグループ活動(親子イベント) 2014年度に引き続き、重症心身障害児たちの「自己表現力」を高めるための行事等を行う。活動参加対象を地域の一般の方々へと拡大するほか、地域行事との連携によるグループ活動の開催を視野に入れた地域との関係づくりも目指す。 【開催時期】 奇数月開催(5・7・9・11・1・3月) 【内容】 遠足・リトミック・タッチケア・音楽コンサートなど</p> <p>2. 会員間の交流会 会員間の交流・情報交換を主目的として交流会を実施する。ニーズを集約することで、重心児を支えるネットワークづくりや自主財源となる商品開発等につなげていく。【開催時期】 親子イベントを行わない偶数月に開催(6・8・12・2月)</p> <p>3. 保護者のための勉強会・情報収集活動 2014年度に引き続き、子どもたち及び家族の地域での生活基盤を確保すべく、情報収集とともに保護者のための勉強会を実施する。 【情報収集】 就学、成人後の活動場所について 【保護者向け勉強会】 10月頃。防災講座、先進的な取り組みをしている団体への見学などを予定。</p> <p>4. 親子と地域のネットワークの強化 重症心身障害児が地域で安心して暮らせることを目的として、地域・関係各機関等と連携した防災ネットワークの構築を目指す。</p> <p>5. 自主財源の検討 安定的な会の運営を行うために、商品開発及び物販等を検討する。</p>

4 収支決算書

* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

		予算額(円)	決算額(円)	内訳
収入	長寿応援ファンド助成金	732,000	732,000	
	団体負担金	16,000	28,880	正会員費:2,000円×9人+1,700円×4人+1,530円+1,360円+680円+510円
	活動収入		22,830	参加費21,240円+行事保険料1,590円
	その他の収入		28,000	賛助会員費28,000円
	計	748,000	811,710	予算額計、決算額計とも支出の計と合致すること

活動名	みんな集まれ！重度心身障害児たちの集いの場づくり
-----	--------------------------

費目	予算額(円)	決算額(円)		内訳・増減理由
		うち 助成額		
謝礼金等	240,000	224,872	224,872	医療資格者(医師・看護師・ヘルパー):106,400円 講師:115,972円 ボランティア:2,500円
消耗品費	40,000	57,700	55,836	消耗品費:18,791円(インク代14,789円、コピー用紙代・その他文房具代4,002円) イベント消耗品費:5,526円(助成金申請は3,662円) イベントグッズ:33,383円
旅費 ・交通費	352,000	142,036	139,366	福祉タクシー代:108,620円 タクシー代:19,530円(助成金申請は16,860円) 電車・バス代:13,886円 増減理由:当初遠足(135,000円)と施設見学(76,000円)で合計211,000円を見込んでいたが、遠足を近場にしたことと施設見学到電車で来た会員が多かったため合計で212,634円(予算-助成額)の減額となった。
印刷費	65,000	115,720	115,322	チラシ印刷費:2,820円(助成金申請は2,422円) 冊子印刷費:112,900円 増減理由:当初冊子印刷で65,000円を見込んでいたが、冊子制作にこども発達センターや医療機関などの協力が得られたこと、冊子を必要とするニーズが高かったこと、関係各機関(行政・医療機関・訪問看護ステーション等)の配布協力が得られたことから、2,000部発注したため、50,322円(予算-助成額)の増額となった。
通信運搬費	8,000	7,514	7,514	年賀状:5,380円 切手代、その他:2,134円
使用料・賃借料	7,000	67,500	67,500	会場費:一周年記念報告会の会場費(荻窪タウンセブンの会議室) 増減理由:通常のイベントは会員のみだが、一周年記念報告会への賛助会員の参加及び地域との交流促進を図って一般参加者の参加を可能とするうえで広い会場が必要となったため60,500円の増額となった。
その他の経費	36,000	179,134	121,590	HP制作費:32,400円 イベント飲食費:128,730円(助成金申請は89,190円) 行事保険料:11,910円(助成金対象外) その他:6,094円(助成金対象外) 増減理由:当初HP制作費を20,000円と見込んでいたが画面の追加が生じたのと、イベント飲食費を助成金対象に追加したため、85,590円(予算-助成額)の増額となった。
助成金対象外 費目経費		17,234		接待交際費:10,220円 支払い手数料:4,014円 諸会費:3,000円
計	748,000	811,710		執行率 (決算額/予算額) 108.5%
		うち 助成額	732,000	予算額計、決算額計とも収入の計と合致すること

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入してください。
	問3 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問4 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「2活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった ↓「充分できた」「ほぼできた」の場合は効果の具体的内容を、「あまりできなかった」「できなかった」場合は課題となった点を記載してください。 行政、医療、福祉など多くの分野との交流・情報交換を積極的に実施することができ、重症心身障害児とその家族にとって地域活動家(協力者)とのつながり、地域におけるネットワークの拡大といった効果が得られた。その成果を集約し、障害児の保護者向けの冊子「重症児とその家族のための おうち暮らし安心BOOK」を3月に発行した。こうして得た地域との関係を今後さらに発展させていくことで、当団体の目標としている通所施設やグループホームの設営に向けての道程が具体的になった。
	問5 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がり了吗か。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ↓参加者や支援者などから寄せられた声を具体的に記載してください。 「みかんぐみのイベントの参加を楽しみにしていました。同じ境遇のご家族とお話ししたりお顔を拝見することができ、心強いです(新会員)。「イベント参加に心が躍るのは自分だけではなく参加者全員なんだと感じました。この会がさらに発展していくことが誰もが暮らしやすい社会になると思います(ボランティア)。「いろんな人たちに協力してもらいながら、ゆっくり周囲に理解してもらいまかんぐみさんのスタイルは、個人的には将来につながると感じています。小さなうちから関わりがある子は、たとえ自分の子でなくても「何かあれば支えたい。応援したい。」と思うのが自然な心の流れだと思います。子どもたちの成長を一緒に分かち合える仲間を小さいうちから作っていくことは、みかんぐみさんの子どもたちだけでなく、すべての子どもが心地よく暮らせる「未来の環境」につながるのではないのでしょうか(イベント講師)。「なかなか一緒に集まる機会がなく孤立しがちですが、仲間をたくさん作り、助け合っているようなお友達を見つけることが、将来のお子さんの為にも大切なことだと思います。これからも長く続けてください(ボランティア)。「私もみかんぐみの皆さんとお会いしてから街で(ハンデのある人に対して)自然に笑いかけたりするようになれました(ボランティア)。「私もお見かけた折には、必要な時にはお手伝いをさせていただきたいです。普通のことを普通にできる社会にしていきたいですね！」(FBに寄せられたコメント)。「小さな子どもの時から皆さんのお子さんと接する機会があれば、きっと自然に接して大人になれると私は信じています。皆さんのお子さんが地域の中で暖かく見守られて生活できる環境を作りたいと思っています(ボランティア)。「在宅になるときは本当に不安でいっぱいでした。これからの人たちにとって、大きな大きなこころの拠り所になるとと思います。」(冊子への感想)。
	問6 実施した活動はどのような点で地域貢献になっていますか。
本団体が実施した活動は重度障害者の地域生活を支援するための基盤づくりであり、地域に潜在している物的・心的・バリアにより家庭にこもらざるをえなかった重症心身障害児とその家族の地域社会への参画を促すことができた。重度障害者自身が地域に出ることにより、多くの人々の意識に上らなかつたさまざまなバリアが可視化され、地域住民に認識されるようになった。こうして社会的な問題を共有することにより、世代や障害の有無などの差異を超えてつながりあう豊かな地域社会の実現に向けてともに取り組む端緒となった。	
問7 ファンド助成を受けたことで生まれたと考える効果を具体的に記載してください。	
ファンド助成を受けたことで、会の活動を月1回という高頻度で定期的に行うことができた。活動を安定して行ったことにより多くの協力者を得ることができた上、協力者が新たな協力者を紹介する、新会員がさらなる新会員を誘うといったよい連鎖反応が生じ、会全体が活性化した。また助成対象として選出されたことに対する信頼感から、行政や医療・福祉分野などの関係機関に対して積極的に働きかけることが可能となり、既存の枠組みを超えて多分野にまたがるネットワークの基盤を構築することができた。	
その他	問8 自由意見
	活動実績のない当団体を長寿応援ファンド助成の対象として選出していただき、誠にありがとうございました。助成を受けることにより、設立したばかりの当団体も積極的な活動を展開することができ、おかげさまで多くの経験を積むことができました。今後はこの経験を活かして自主事業力をつけ、当団体が目標としている豊かな地域社会の実現に向けてさらなる活動を継続していく所存です。